

なごや生きもの一斉調査2019 ひっつきむし編

野原で遊んでいたら、洋服にピシリくっついてくる植物。「ひっつきむし」が、なかなか取れずに大変だった経験はありませんか。
そんな「ひっつきむし」の一斉調査が11月8日～10日、市内41か所の公園や緑地などで行われ、専門家や一般参加の親子連れなど延べ227人が生きもの情報を収集しました。

知らない間にくっつく「ひっつきむし」

動物と違い移動できない植物は、いろいろな方法でタネを散布し、子孫を広げていきます。「ひっつきむし」も人間や動物にくっつくことで、遠くへタネを運び、子孫を残していますが、その種類やくっつき方はさまざま。今回の調査では、どんな種類のひっつきむしが見つかり、どんな仕組みでくっつくのかを探りました。

調査は、川沿いや土手、空き地などを歩き回り、植物が衣服にくっつくかを試したり、資料と見比べたりしながら実施。ひっつきむしが見つかったらポイントごとで袋に分け収集していきました。また、あるポイントでは、10mの距離を白いタオルを広げて往復し、どれだけのひっつきむしが取れるかという「数量調査」も行いました。収集後、参加者らの洋服や靴にはひっつきむしがピシリ!このように、私たち人間も知らないうちに、タネの散布に貢献しているようです。

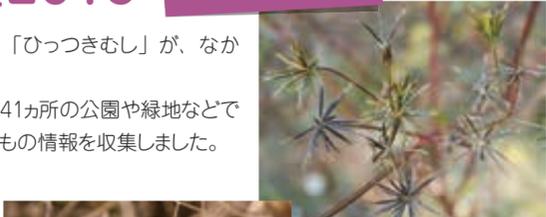


タオルにびっしり付きました

資料と見比べて種類を確認

洋服がひっつきむしまみれに!

ひっつきむしで楽しくお絵描き



コセンダングサ。引っかかるのとちよつと痛い...



アレチヌスビトハギ。なかなか取れなくて厄介!拡大するとトゲがいっぱい。(写真右)

くっつく仕組みもいろいろ

調査の結果、マジックテープのようなトゲがある「アレチヌスビトハギ」や、トゲトゲが特徴の「アメリカセンダングサ」「コセンダングサ」などの外来種のほか、在来種では、ベタベタする「チヂミザサ」などが見つかりました。ルーペでそれぞれの表面を観察してみると、小さなトゲがいくつも生えているものや、逆向きのトゲがあるものなどがあり、それらが衣服に引っかかる仕組みになっていることが分かりました。その後、集めたひっつきむしで絵を描いて楽しむ親子の姿も見られるなど、子どもから大人まで身近な自然に親しむ機会となりました。

今後、調査結果をまとめ、報告する予定です。



どんな種類が付いているのかな?



地球ハグ倶楽部

地球ハグ倶楽部は、名古屋市を拠点にして、親子で自然の中で一緒に遊ぶ活動をしています。2015年8月9日の「ハグの日」に設立。「自分と人と地球をハグできる力を育む」ことを目的に、本物の自然を体験できる週末イベントを開催しています。合言葉は美味しい・楽しい・美しい

1. 自然の恵みをとって食べる「美味しい」体験
 2. 自然の素材で作って遊ぶ「楽しい」体験
 3. 自然の神秘を五感で感じる「美しい」体験
- これら活動の3本柱を通して、私たちは自然の恵みで生きていること! 私たちも自然の一部であること!



ホテルイカツアー



パチンコ飛ばそう!



ヨモギもち作り



ひすい 翡翠採集



カンタ! ティモール自主上映会



弓矢を飛ばそう!



キャンプ風景

自然を守ることは、自分を守ることに同じだということ、体験を通して知ってほしい。子供たちだけでなく、お父さんやお母さんにも、自然の恵みの中でリフレッシュし、環境について考えてもらいたい。また、子育て中のお母さんの関心が高い、SDGsの17目標に関わる『食の安全』や『マイクロプラスチックをはじめとした環境問題』など、さまざまなテーマを“学びかけ”になればと考えます。

掲示板

令和2年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の「後継者育成を目的とする活動」を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。
令和2年1月7日から2月12日まで、令和2年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。

協議会ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター
住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 (地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)
電話 052-831-8104 (平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/>
なごや生物多様性センター 検索 
なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>
こちらからアクセスできます



生きものシンフォニーのバックナンバーは、名古屋市公式ウェブサイトでご覧いただけます。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和元年12月 29号

特集

つながる つくる なごやのみらい 環境デーなごや2019

2019年9月14日(土) 会場：久屋大通公園

来年は、国際社会が協力して生物多様性の問題に取り組む「国連生物多様性の10年」(2011年～2020年)の最終年です。そこで環境デーなごや2019では、エンゼル広場において、様々な展示やワークショップにより、来場者の方に生物多様性に配慮したライフスタイル「MY行動宣言 5つのアクション」を体験していただきました。

ACT1 たべよう

地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

ACT2 ふれよう

自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

ACT3 つたえよう

自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

ACT4 まもろう

生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

ACT5 えらぼう

エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

生物多様性を守るために、私たちにできるアクション!

MY 行動宣言



CONTENTS

特集	つながる つくる なごやのみらい 環境デーなごや2019	P1～2
TOPICS	植物標本作製講座について	P3
	「森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアー」を開催しました	P4
	なごや生きもの一斉調査2019～ひっつきむし編～	P5
活動紹介	地球ハグ倶楽部	P6
掲示板	令和2年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集	P6



生物多様性を守るための『MY行動宣言 5つのアクション』が体験できる66ブースで、クイズやクラフト作りを楽しんだり、実際に生きものに触れてみたり、生きものとのつながりを感じる一日となりました。その一部をご紹介します。

ACT1 たべよう



外来種ブラックバスの試食コーナー
 なごや生物多様性保全活動協議会

地産地消ではないけれど、揚げたての唐揚げを試食しました。外来種は“食べて減らす”ということも一つの手段ですね。

ACT2 ふれよう



市民調査から見えた今のなごや
 なごや生物多様性保全活動協議会

どんな生きものが絶滅の危機にあるのか、その生態や、どう保全しているのかを知るきっかけに。カワバタモロコや水草の展示に、来場者は興味津々!



知ろう!学ぼう!なごやの生きもの
 名古屋環境局環境企画課
 なごや生物多様性センター

今年名古屋で初めて発見された、桜の天敵とされる「クビアカツツカミキリ」をはじめ、アライグマやヌートリア、ミシシッピアカミミガメなど生態系を脅かす生きものについて学びました。



クビアカツツカミキリ(♂) (標本)
 ミシシッピアカミミガメ

ステージ発表も行いました!

ACT3 つたえよう

高校生が日頃の活動成果を紹介。来場者が楽しめるように工夫を凝らした展示や体験など“つたえよう”とする姿勢が輝いていました。



県立木曾川高等学校総合実務部

国の天然記念物 木曾川のイタセンバラの保護につながる活動

調査や学習会への参加、飼育などを通して、イタセンバラの保護につながっています。広報活動をより一層工夫し、若い世代への認知度をもっと高めたいとのこと。



県立明和高等学校SSH部生物班

明和高校SSH部生物班の活動報告

葉脈標本や葉緑体の発光実験を体験できるブース。生物の飼育や研究なども多種多様で、ステージ発表では語り尽くせないほど!



東邦高等学校科学研究部

東邦高校周辺におけるブルーギル捕獲と透明標本制作

透明標本の制作のほか、魚道調査に参加して河川環境を把握するなど、環境への取り組みも行っていきます。1年生ながら堂々としたステージ発表にも拍手!!



県立佐屋高等学校作物専攻

チェーン除草機による水田環境の保全と米づくり

除草剤を使わないチェーン除草による米作りを実践しています。また、ヤギを活用した除草で水田環境保全も推進。特別栽培米の認定を目指します。



名古屋大谷高等学校化学部

インシガメの繁殖を目指して

二ホンインシガメを守るため繁殖に挑戦。今後は個体を増やして放流するのが目標とか。展示には昆虫の標本に加え、カメの甲羅も登場。



県立佐屋高等学校文鳥プロジェクト

広がれ! 弥富文鳥でつなげる幸せの輪

手乗り文鳥体験やグッズ販売など、いろいろな形で情報を発信。弥富文鳥の復活を目指し、繁殖にも力を入れています。文鳥愛あふれるブースでした。



市立名古屋商業高等学校商品開発研究班

Let's make Ashibuenjoy! ~よし!筆管、作ろう!!~

筆の布製品の開発・販売や、工作教室を通しての環境啓蒙を推進しています。環境に配慮した筆ストローも注目を集めていました。



植物標本作製講座について

当センターには約2,200点の維管束植物の腊葉標本(押し葉標本)が収蔵されています。さらに、2018年8月から12月にかけて、「愛知植物の会」の会員によって作製された標本約3,000点が追加されました。また、2018年8月に名城大学より約3,000点の標本を寄贈いただいたため、総標本点数は一気に増加しました。今後、標本登録とその整理を順次進めていく予定ですが、標本の登録や管理には、知識や技術だけでなく、膨大な労力が必要となります。本来、博物館では学芸員がその役割を担っていますが、維管束植物や蕨類といった分類群ごとの担当者が存在することは極めて少ないため、標本を取り扱うボランティアを育成し、学芸員と協働して標本管理を行っている博物館が近年増えつつあります。

そこで、当センターでも植物標本の作製と管理を行うボランティア養成を目的とした標本作製講座を昨年度から開始しました。本講座の講師は「愛知植物の会」の会員で、名古屋市レッドリスト選考にも携わる村松正雄先生にお願いしています。今回はその講座の様子をご紹介します。なお、今年度の講座は、季節ごとの植物が採集できるよう、春(5月)・夏(6月)・秋(10月)に計6回の植物採集を、冬(12月・2月)に計4回の標本台紙貼付作業を実施します。

(1) 標本について学ぶ座学

講座参加者の中には、植物標本に馴染みのない方も多いため、最初に「愛知植物の会」における標本作製の歴史や県内の標本収蔵状況などを村松先生に紹介していただきました。さらに、標本はその時代や場所にその植物が生育していた証拠となる他に、多くの標本が集まれば自然環境の変化を探る研究資料にもなるなど、様々な役割・用途があることもお話しいただきました。その後、講座で作製する腊葉標本の作り方の概略説明が行われました(写真1)。



写真1 座学の様子

(2) 野外での植物採集

次に、実際に野外に出て参加者自身で植物を採集してもらいました。腊葉標本は、花や果実の形態が同定の決め手となるため、開花または結実している植物を探します。道中、似ている植物の見分け方や、和名の意味など、植物にまつわる色々な知識を村松先生から教えてもらいつつ、

参加者全員で標本に適した植物を採集しました。採集後、現地で押し葉にするために新聞紙へ植物体を挟みます(写真2)。その際は、「出来上がる標本をイメージして形を整えること」、「植物体が小さい種類は2~3株採集すること」、「厚みのある根は根掘り(スコップ)などで叩いてなるべく平らにすると良い」といったアドバイスを聞くと、参加者は熱心にメモを取っていました。



写真2 採集した植物を新聞紙に挟むところ 植物の説明を聞いているところ

(3) 植物の乾燥作業

採集して新聞紙に挟んだ植物体は、2~3日は新聞紙(吸湿紙)を毎日取り換えます。ある程度、植物体が乾燥してきたら、状態を見ながら新聞紙を取り換える頻度を落としていきます。完全に乾燥するには1~2週間かかるため、乾燥作業は参加者の自宅でも実施してもらいました。

(4) 台紙への貼付作業

完全に乾燥した植物体は、専用の道具(写真3)を使用して標本台紙に貼り付けます。標本ラベルには「種名」、「採集年月日」、「採集場所」、「採集者」などの必要な情報を書き込みます。ラベルに情報を書き込んだら、ようやく標本が完成となります。この貼付作業は第6回までの講座で採集した植物を使用して行います。



写真3 台紙に添付する道具類

今年度は第6回の講座までにのべ21名の参加者がありました。なかには、複数回参加いただいているリピーターの方もいます。本講座は次年度も引き続き行う予定ですが、初参加の方にはまずは植物標本に興味を持っていただくことを目指し、リピーターの方には標本作製のスキルアップに繋がるよう、講座内容の工夫を重ねていきたいと思ひます。(生物多様性専門員 西部めぐみ)

「森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアー」を開催しました

9月21日に当センター初の試みとなる「日帰りバスツアー」を開催しました。

これは、森林環境譲与税*を財源として森林の保全・再生に向けた普及啓蒙を行うもので、行先は飛騨川上流にある岐阜大学附属位山演習林(岐阜県下呂市萩山町)。名古屋の水道水の源にもなっている地域です。

参加したのは小5~中2のお子さん14名とその保護者、なごや生物多様性保全活動協議会の会員など総勢39名のツアーとなりました。

終日案内をしてくださったのは、現地で活躍するNPO法人森のなりわい研究所の伊藤藤一さん。片道150km近い長旅となりましたが、飛騨川沿いに移りゆく景色を見ながら植生の変化や歴史的建造物など興味の尽きないトークで楽しませてくれました。

現地に着くともうお昼! さっそく山菜てんこ盛りのお弁当で腹ごしらえです。大人は大満足でしたが、子どもたちには難易度が高かったかな?

食事の後は森林散策&作業体験に向かいます。いくの雨模様でしたが“水の行方”を追うにはうってつけの天気とあって、森に降った雨が樹木の幹を伝って地面に浸透していく様子や、川の“最初の一滴”を皆さん興味深そうに観察していました。

作業体験は雨の影響であまりできませんでしたが、数十メートルもある木の高さを手元の器具だけで測る手法を



2つの器具を使って木の高さを測る



皆さん代わる代わる試されていました。

この他にも、ムササビやモモンガが滑空するために登る木を観察したり(爪痕でその木だけ樹皮が荒れているそうです)、フユイチゴの実を味わったりと充実したツアーとなりました。

来年以降もいろいろと趣向を変えて実施したいと思ひますので、皆さん是非ご参加ください。



ムササビやモモンガが滑空の際利用する木の解説

*森林環境税/森林環境譲与税:温室効果ガスの排出抑制や災害防止などを目的とした森林整備や、それを促す人材育成・普及啓蒙等に必要財源を安定的に確保するため、国民が等しく負担を分かち合って森林を支える仕組みとして創設されたもので、名古屋市にも今年から譲与税が配分されています。なお、森林環境税の徴収は令和6年度に開始される予定です。

竹林の管理について

近年、里山や河畔林における放置竹林が全国的に問題となっています。竹は生長が早く、人の手が入らないとあっという間に鬱蒼とした竹林になりますが、生物多様性の面でも、治水・防災面でも、竹林を適度に間伐し管理することは必要不可欠です。この間伐の際、優先的に伐採する竹を見分ける用語として「雄竹」「雌竹」という呼び方があります。生きものシンフォニー28号2ページでも紹介されましたが、竹は雌雄同株のため、この呼び方は生物学上の雌雄を示すものではありません。竹林を間伐する際、最下の枝が1本の「雄竹」は地下茎が老齢であるため伐採し、枝が2本の「雌竹」は地下茎が若くタケノコ生産力が高いため残すという竹林管理の方法がタケノコ生産者などの間で古くから伝えられていますが、「雄竹」「雌竹」の特徴は地下茎の年齢と必ずしも一致するわけではありません。

名古屋市内には竹林を有する大型の緑地公園が複数存在しますが、竹林の適正管理は公園内の里地里山環境を健全に保つことに直結します。近くの緑地公園を訪れた際は、竹林の状態にも注目して観察してみてください。